

佐賀県研究成果情報

ブドウ晩腐病の発生を防ぐためには果実袋の止め口を堅く締めることが重要である				
〔要約〕ブドウの袋かけ時に、果実袋の止め口を緩くしておくで袋内に晩腐病菌が流入し発病が助長されるので、降雨が流入しないように止め口を堅く締めることが重要である。				
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp
部会名	果樹	専門	果樹病害	対象 ブドウ

〔背景・ねらい〕

ブドウ晩腐病の対策として、摘粒作業後に出来る限り早く袋かけ作業をおこなわせることや、果房が乾いた状態で袋かけ作業を行うことが重要であるとされている。

しかし、袋のかけ方については個人差が大きく、止め口を堅く締めてある場合や、止め口が緩い場合等、様々であることから、果実袋の止め口の状態と晩腐病の発生との関係について明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 同一園内で袋かけの状態と晩腐病の発生状況を比較すると、止め口が緩い果房では発病が多くなる（図1）
- 2 止め口を堅く締めた果房では、水滴は袋内にまったく流入しないが、緩く締めた果房では水滴の流入が認められる（図2）。
- 3 図3で示すように、ブドウ晩腐病の発生を防止するためには袋の止め口を堅く締め、雨滴が袋内に流入しないようにすることが重要である（図3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 大規模経営の園では、袋かけ作業の際に多数の人を雇用することが多い。袋かけの良し悪しには個人差があることから、袋かけ作業を丁寧に実施するよう指示し、止め口を堅く締めることを徹底することが晩腐病を防ぐうえで重要である。
- 2 袋の止め口を堅く締めること以外にも、降雨等で果房が濡れた状態で袋かけを行うと晩腐病の発病を助長するので注意が必要である。
- 3 晩腐病の感染を防止するためには、摘粒後できる限り早い時期に袋かけ作業を終えることが重要である。

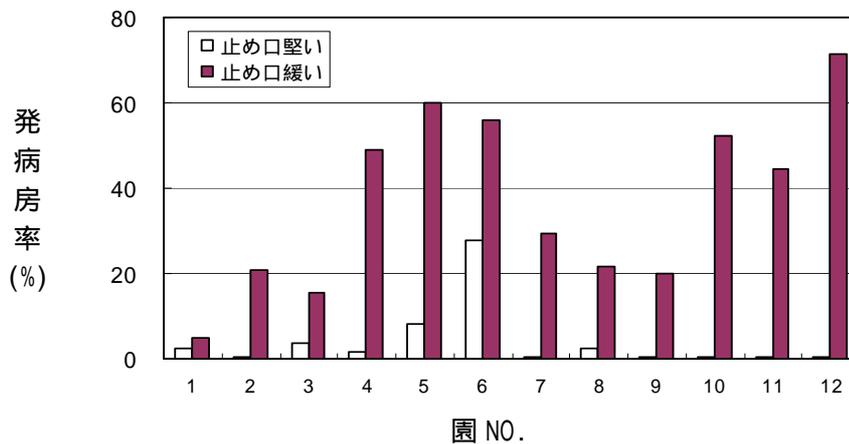


図1 ブドウ果実袋の締め口を強く締めることによる晩腐病の発病軽減効果
 調査は2006年9月に実施し、手で袋を軽く引っ張った際に、袋が上下に1cm以上動くものを「緩い」とした

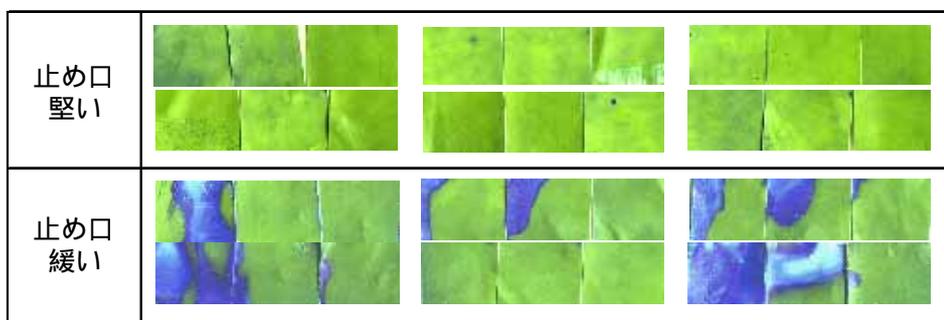


図2 ブドウ果実袋の締め口を強く締めることによる袋内への水滴流入防止効果¹⁾
 1) 感水紙を果軸に貼り付けた後に果実袋で覆い、ツリースプレーで水道水を散布し水滴の付着状況を調査した

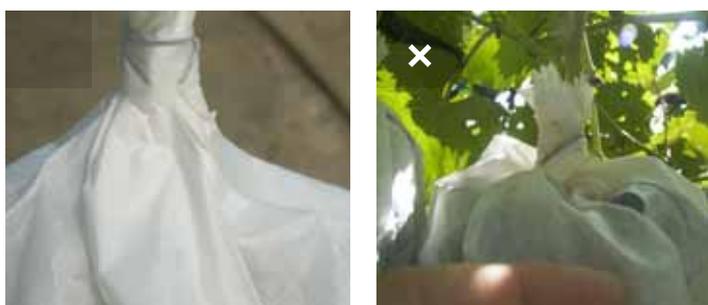


図3 良い袋かけと悪い袋かけ
 良：水滴が流入しないように、針金を締め口の上部まできつく締める
 悪：針金の締め方が緩く締め口に隙間ができるため、袋内に水滴が流入する

[その他]

研究課題名：果樹における特別栽培農産物の生産を目指した防除体系の構築
 予算区分：県単
 研究期間：平成13年～平成18年
 研究担当者：井手洋一、田代暢哉、近藤知弥
 発表論文等：平成18年度 佐賀県果樹試験場業務年報（印刷中）